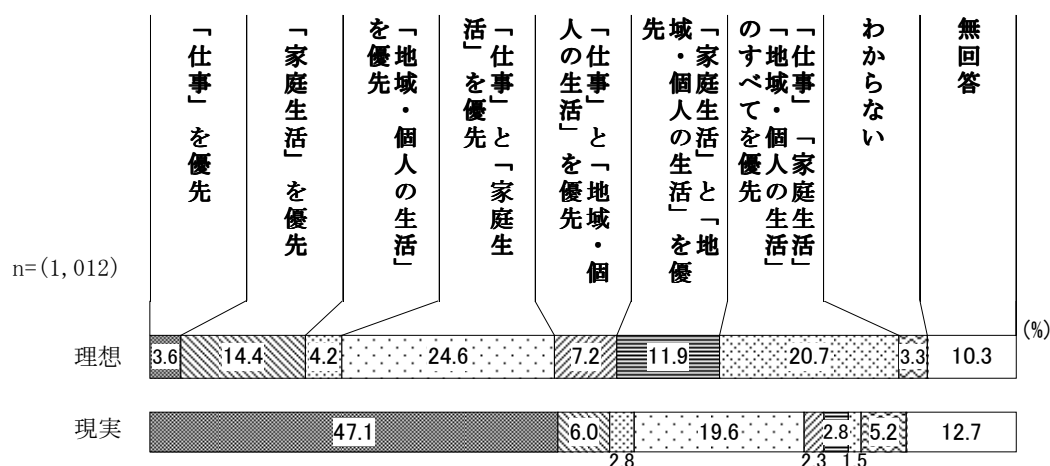


## 5. ワーク・ライフ・バランス

### (1) 生活のなかでの優先度

問21 生活のなかで「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）について、理想では何を優先したいですか。また現実では何を優先していますか。（それぞれについて該当する「1～8」に○を1つ）

図表5-1 生活のなかでの優先度（全体）



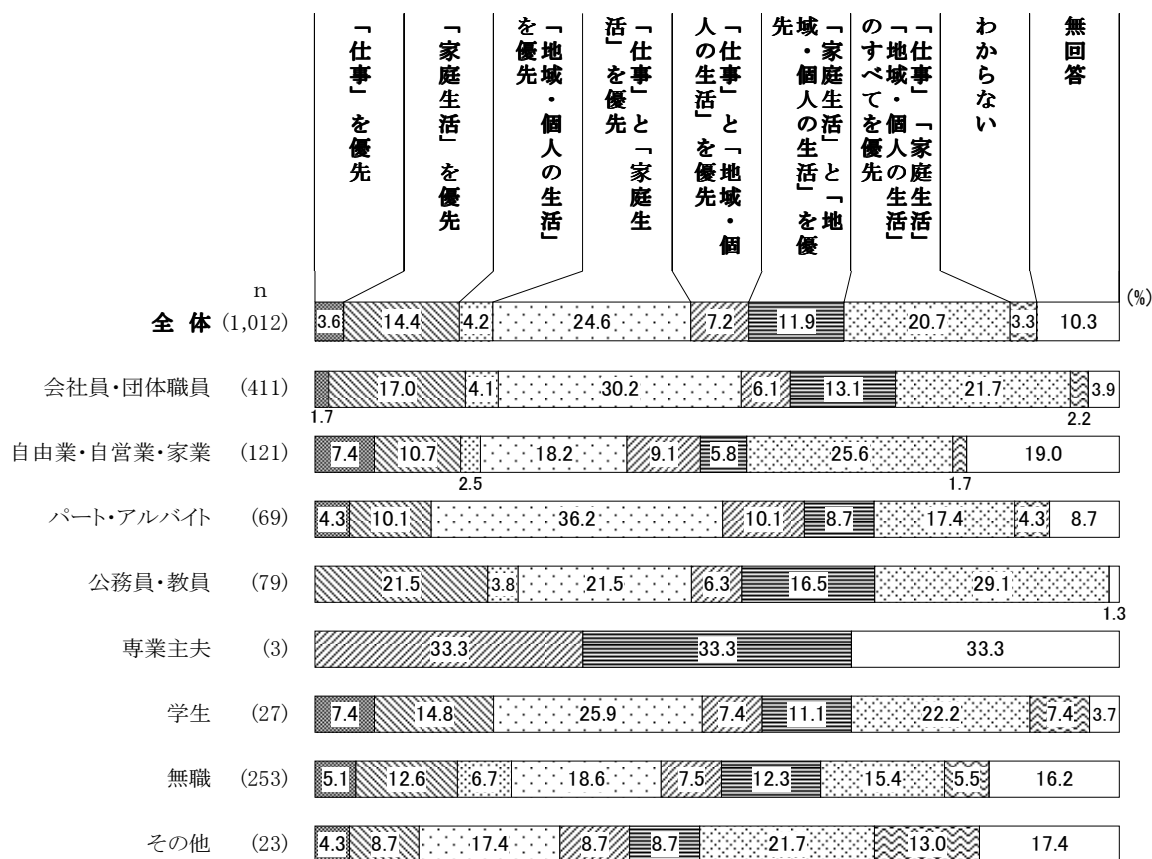
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）について、理想としては何を優先したいかと聞いたところ、『仕事』と『家庭生活』を優先が24.6%で最も高く、これに『仕事』『家庭生活』『地域・個人の生活』のすべてを優先が20.7%で次いでいる。

一方、現実には、『仕事』を優先が47.1%と5割近くを占め、これに『仕事』と『家庭生活』を優先が19.6%で次いでいる。（図表5-1）

【理想】

職業別でみると、パート・アルバイトでは「『仕事』と『家庭生活』を優先」が36.2%を占めているほか、会社員・団体職員も30.2%となっている。また、公務員・教員では「『仕事』『家庭生活』『地域・個人の生活』のすべてを優先」が29.1%と全職業中最も高くなっている。(図表5-2)

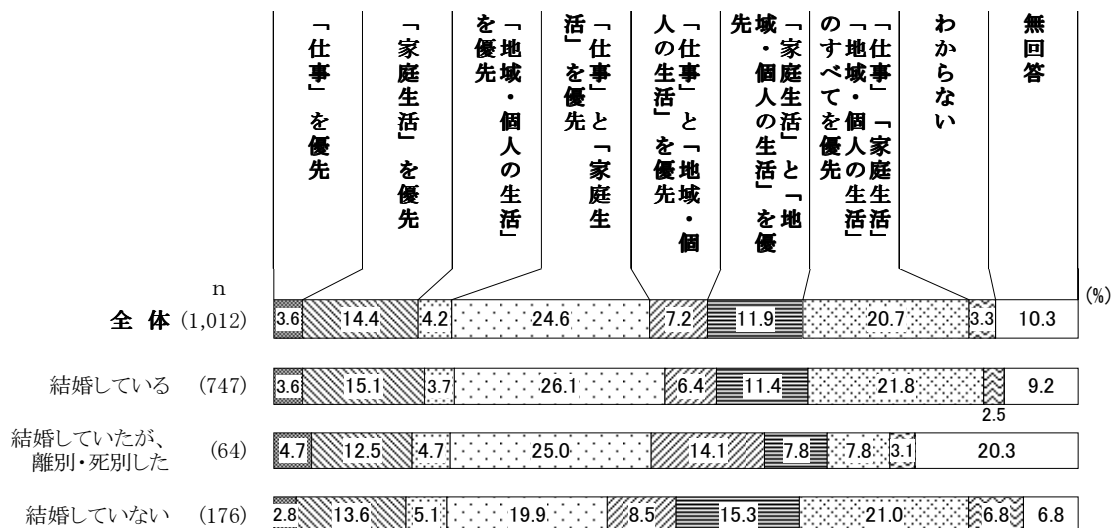
図表5-2 生活のなかでの優先度—理想（職業別）



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

未既婚別でみると、結婚している層では、「『仕事』と『家庭生活』を優先」が26.1%と、結婚していない層（19.9%）より高くなっている。(図表5-3)

図表5-3 生活のなかでの優先度—理想（未既婚別）



居住地域別でみると、県央地域では『仕事』と『家庭生活』を優先が29.7%とやや高くなっている。また、南部地域では『仕事』『家庭生活』『地域・個人の生活』のすべてを優先が26.5%とやや高くなっている。(図表5-4)

図表5-4 生活のなかでの優先度－理想（居住地域別）

(%)

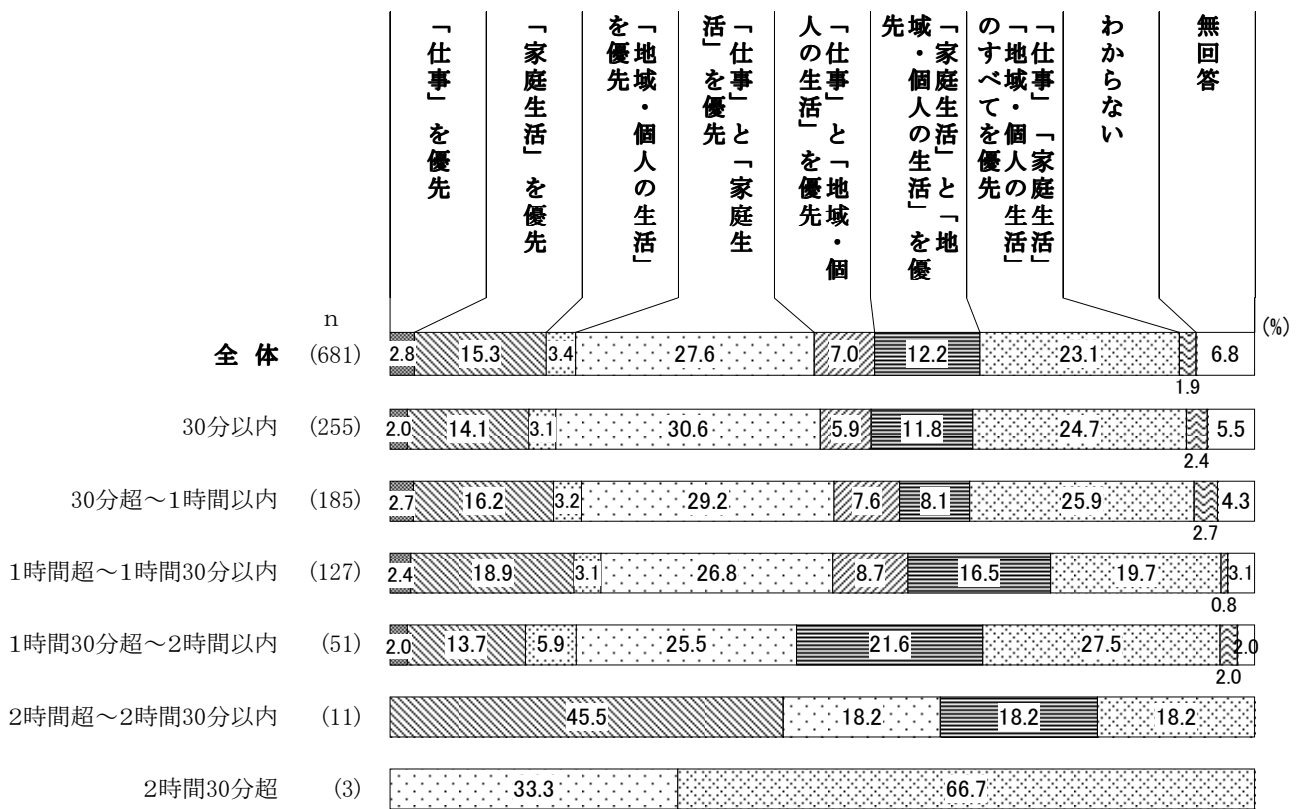
		n	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	先「地域・個人の生活」を優先	優先「仕事」と「家庭生活」を	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のすべてを優先	わからない	無回答
居住地域別	全体	1,012	3.6	14.4	4.2	24.6	7.2	11.9	20.7	3.3	10.3
	南部地域	98	4.1	18.4	4.1	21.4	6.1	8.2	26.5	1.0	10.2
	南西部地域	90	4.4	20.0	4.4	26.7	5.6	16.7	10.0	3.3	8.9
	東部地域	156	4.5	15.4	2.6	23.1	5.8	12.8	24.4	3.2	8.3
	さいたま地域	168	1.2	15.5	6.0	26.8	7.1	8.9	22.6	5.4	6.5
	県央地域	64	1.6	12.5	3.1	29.7	10.9	7.8	17.2	7.8	9.4
	川越比企地域	117	-	10.3	5.1	23.9	8.5	13.7	23.1	4.3	11.1
	西部地域	107	6.5	10.3	2.8	24.3	8.4	15.0	19.6	0.9	12.1
	利根地域	88	4.5	13.6	4.5	25.0	6.8	15.9	20.5	2.3	6.8
	北部地域	76	3.9	15.8	5.3	21.1	6.6	9.2	22.4	-	15.8
	秩父地域	12	-	-	-	41.7	8.3	-	8.3	-	41.7

※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

第IV章 調査の結果

通勤・通学時間別でみると、30分以内から、2時間以内までの各時間帯では、「『仕事』と『家庭生活』を優先」と「『仕事』『家庭生活』『地域・個人の生活』のすべてを優先」の2項目が高くなっている。(図表5-5)

図表5-5 生活のなかでの優先度—理想（通勤・通学時間別）

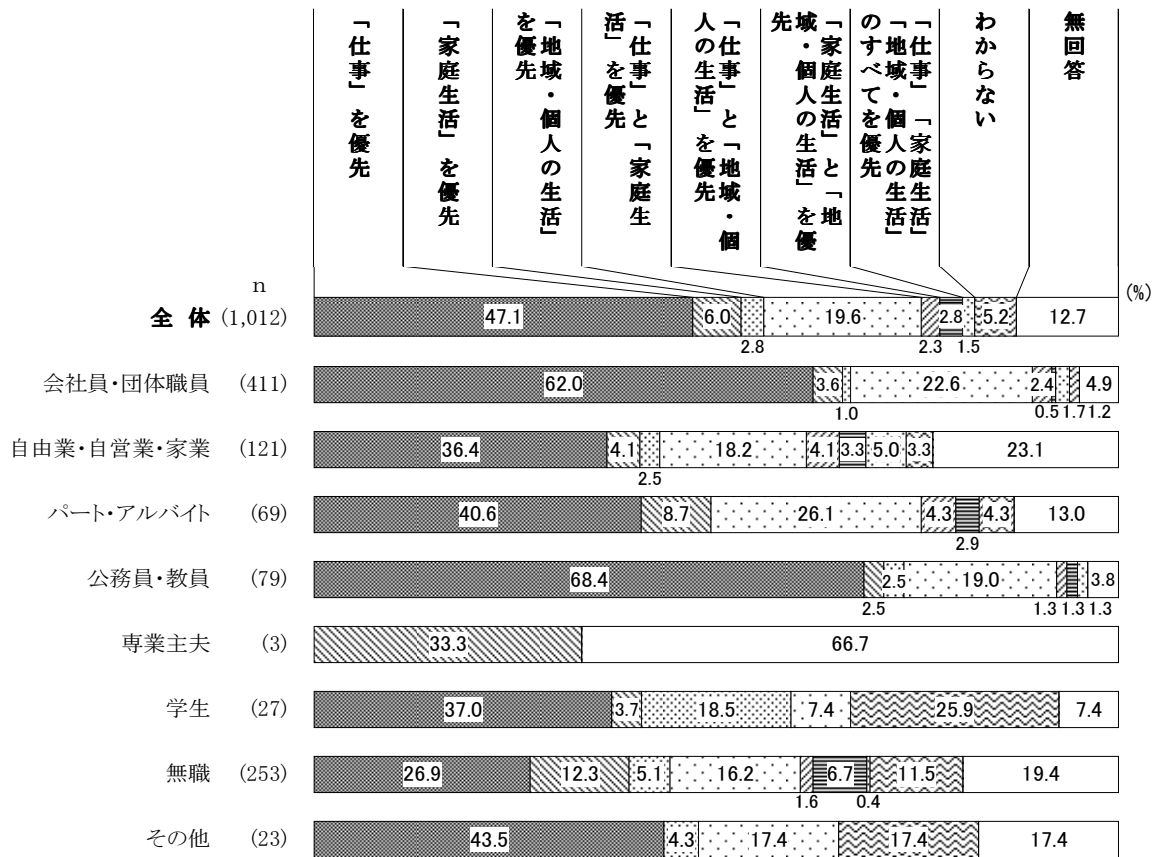


※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

【現実】

職業別でみると、公務員・教員では『仕事』を優先が68.4%を占めているほか、会社員・団体職員でも62.0%となっている。また、パート・アルバイトでは『仕事』と『家庭生活』を優先が26.1%と、他の層に比べてやや高くなっている。(図表5-6)

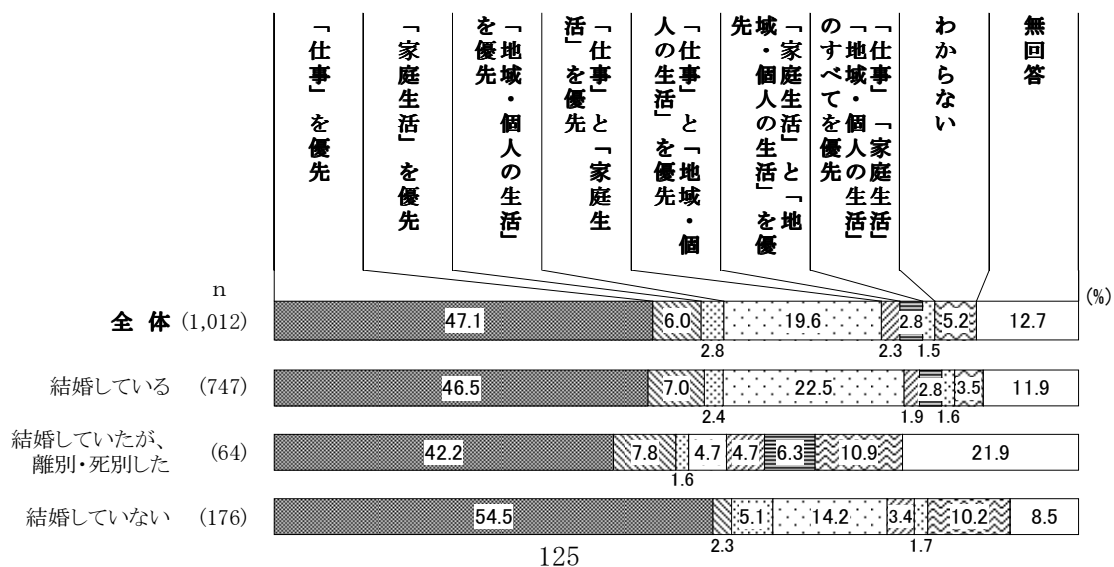
図表5-6 生活のなかでの優先度—現実(職業別)



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

未既婚別でみると、結婚している層では『仕事』と『家庭生活』を優先が22.5%と、結婚していない層(14.2%)に比べて高くなっている。(図表5-7)

図表5-7 生活のなかでの優先度—現実(未既婚別)



居住地域別でみると、さいたま地域では、『仕事』を優先が54.8%と高くなっている。(図表5-8)

図表5-8 生活のなかでの優先度－現実（居住地域別）

(%)

		n	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	先「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のすべてを優先	わからない	無回答
居住地域別	全体	1,012	47.1	6.0	2.8	19.6	2.3	2.8	1.5	5.2	12.7
	南部地域	98	51.0	3.1	1.0	22.4	2.0	2.0	2.0	3.1	13.3
	南西部地域	90	50.0	4.4	3.3	21.1	-	2.2	1.1	10.0	7.8
	東部地域	156	46.2	6.4	3.2	23.1	1.9	2.6	1.9	4.5	10.3
	さいたま地域	168	54.8	5.4	1.8	17.3	1.2	3.0	1.2	6.5	8.9
	県央地域	64	42.2	4.7	7.8	20.3	4.7	-	1.6	6.3	12.5
	川越比企地域	117	44.4	10.3	3.4	18.8	1.7	2.6	0.9	5.1	12.8
	西部地域	107	43.9	7.5	2.8	19.6	2.8	2.8	0.9	3.7	15.9
	利根地域	88	51.1	8.0	1.1	22.7	3.4	3.4	1.1	1.1	8.0
	北部地域	76	40.8	3.9	1.3	14.5	3.9	6.6	3.9	5.3	19.7
	秩父地域	12	25.0	8.3	-	8.3	-	8.3	-	8.3	41.7

※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

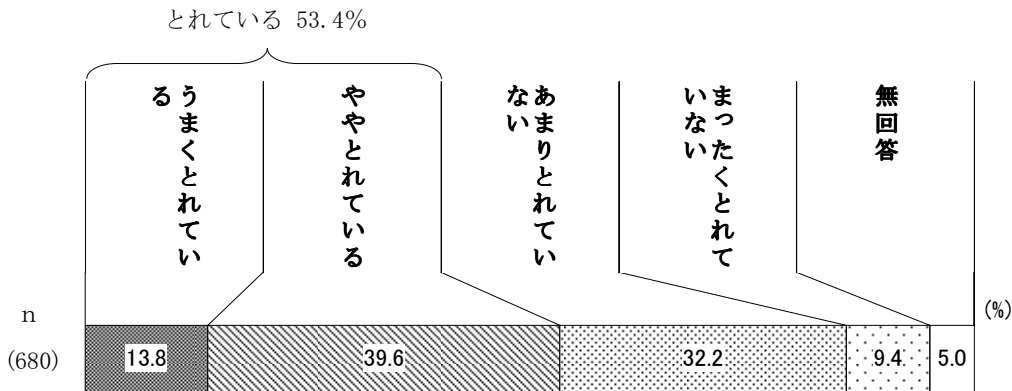


(2) ワーク・ライフ・バランスの状況

問22～問23は、現在、就労している方にうかがいます

問22 あなたにとって「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）のバランスは、うまくとれていると思いますか。（○は1つ）

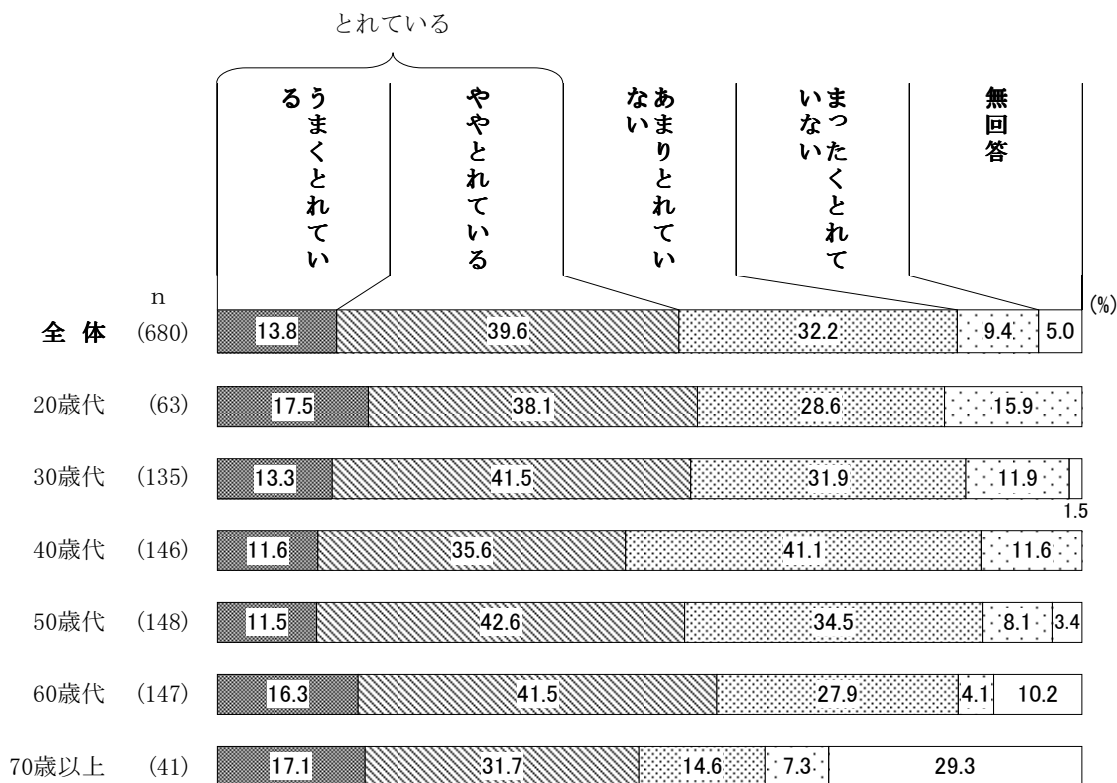
図表5-10 ワーク・ライフ・バランスの状況（全体）



ワーク・ライフ・バランスについて、「うまくとれている」は13.8%で、これに「ややとれている」(39.6%)を合わせた《とれている》は53.4%を占めている。一方、「あまりとれていない」は32.2%、「まったくとれていない」は9.4%となっている。(図表5-10)

年齢別でみると、40歳代を除く各年代では《とれている》が5割を超えている。(図表5-11)

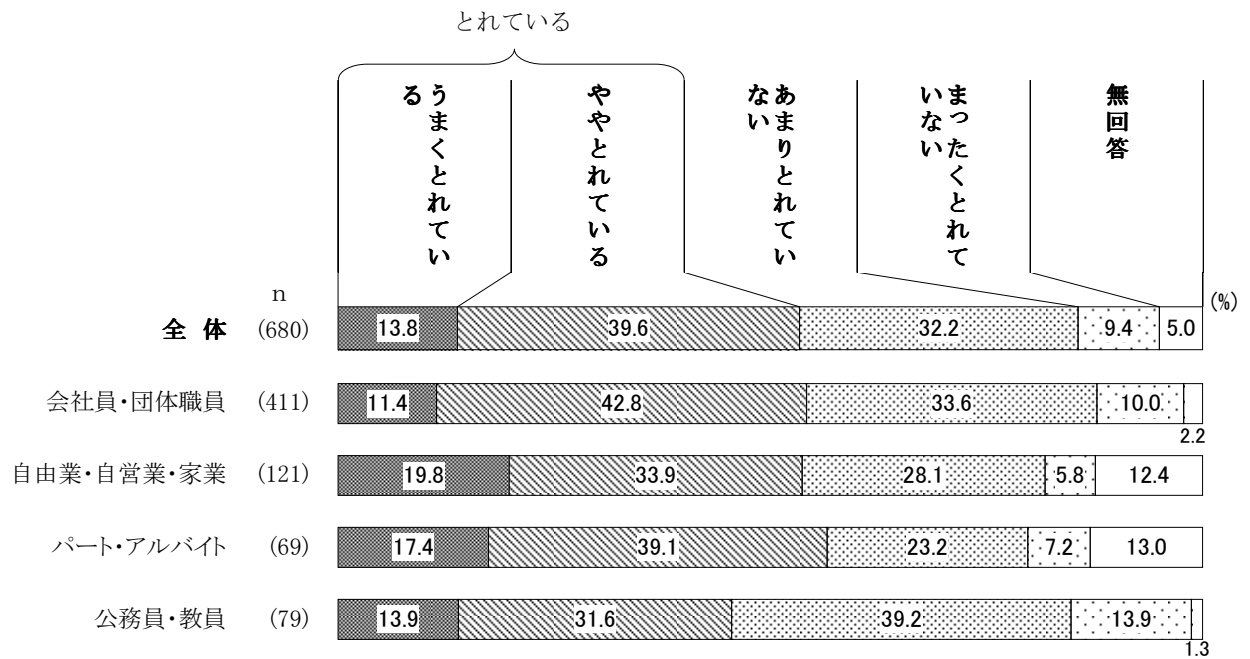
図表5-11 ワーク・ライフ・バランスの状況（年齢別）





職業別でみると、公務員・教員では《とれている》は45.5%と、他の職業よりやや低くなっている。(図表5-12)

図表5-12 ワーク・ライフ・バランスの状況（職業別）



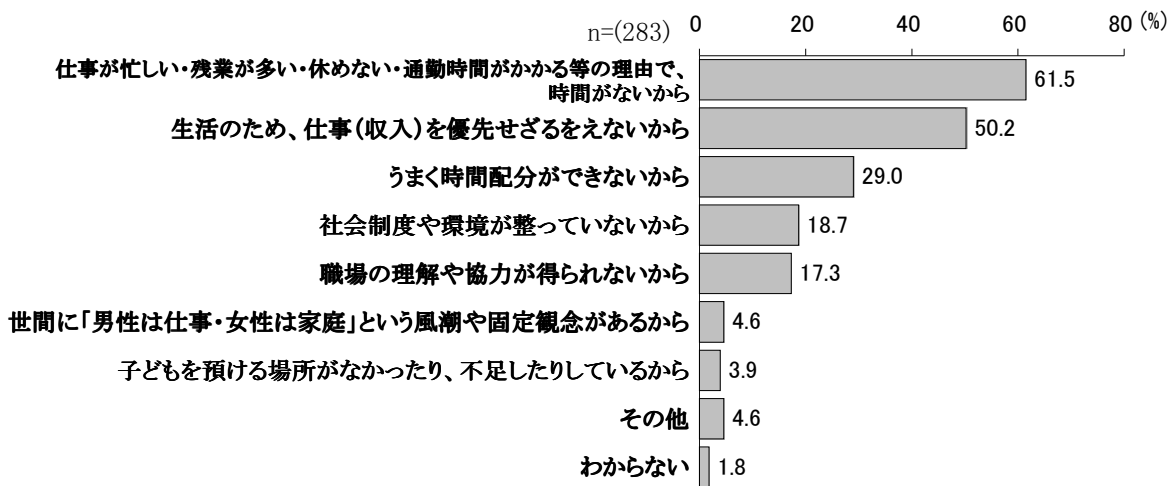
※専業主夫、学生、無職、その他は回答者なし

(3) ワーク・ライフ・バランスがうまくとれない理由

問22で「3. あまりとれていない」、または「4. まったくとれていない」とお答えの方にかがいます

問22-1 バランスがうまくとれない理由は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

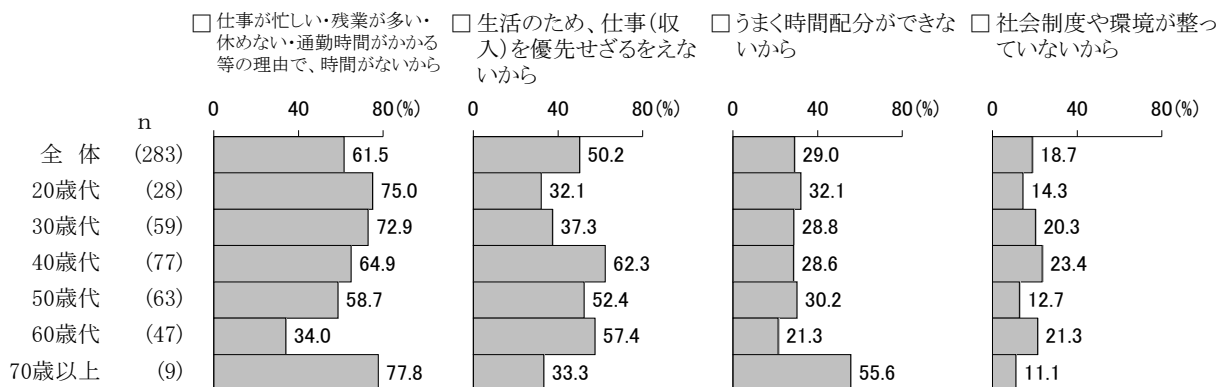
図表 5-13 ワーク・ライフ・バランスがうまくとれない理由 (全体)



ワーク・ライフ・バランスが「あまりとれていない」「まったくとれていない」という人に、その理由を聞いたところ、「仕事が忙しい・残業が多い・休めない・通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が61.5%で最も高く、これに「生活のため、仕事(収入)を優先せざるをえないから」が50.2%で次いでいる。(図表 5-13)

年齢別でみると、20歳代、30歳代では「仕事が忙しい・残業が多い・休めない・通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が、それぞれ75.0%、72.9%と他の年代より高くなっている。また、40歳代では「生活のため、仕事(収入)を優先せざるをえないから」が62.3%を占めているほか、50歳代(52.4%)、60歳代(57.4%)でも5割を超えている。(図表 5-14)

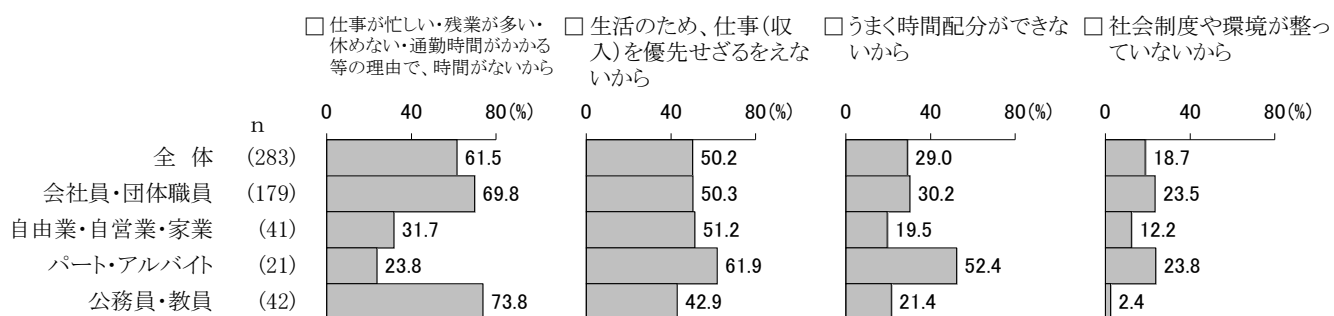
図表 5-14 ワーク・ライフ・バランスがうまくとれない理由 (年齢別 上位4項目)



※回答者が19人以下の場合、分析ではふれていない

職業別でみると、会社員・団体役員、公務員・教員では「仕事が忙しい・残業が多い・休めない・通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が7割前後と他の職業に比べて高くなっている。また、パート・アルバイトでは「生活のため、仕事（収入）を優先せざるをえないから」が61.9%を占めているほか、「うまく時間配分ができないから」も52.4%と高くなっている。（図表5-15）

図表5-15 ワーク・ライフ・バランスがうまくとれない理由（職業別 上位4項目）

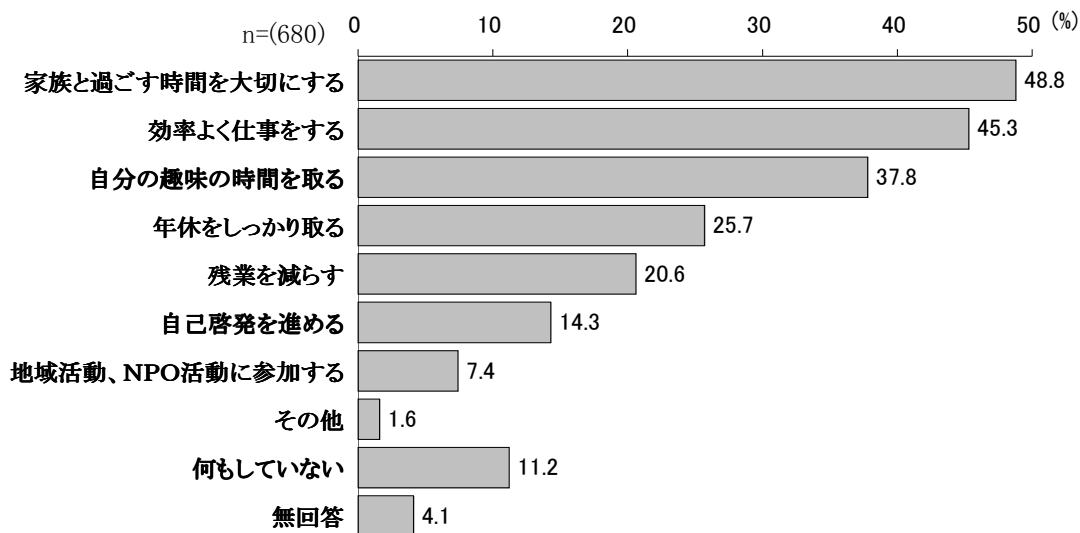


※専業主夫、学生、無職、その他は回答者なし

(4) ワーク・ライフ・バランスをとるための工夫

問23 あなたは「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の調和をはかるために、どのようなことをしていますか。（〇はいくつでも）

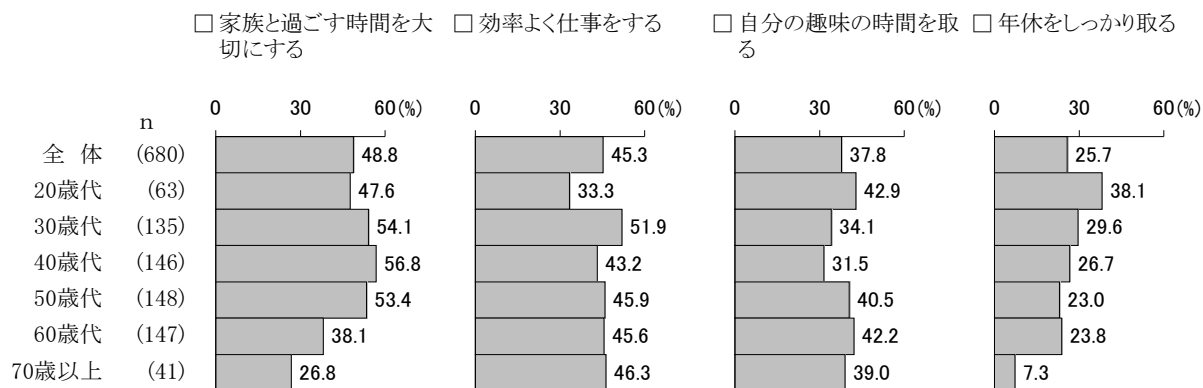
図表5-16 ワーク・ライフ・バランスをとるための工夫（全体）



ワーク・ライフ・バランスをとるための工夫としては、「家族と過ごす時間を大切にする」（48.8%）と「効率よく仕事をする」（45.3%）の2項目が、いずれも4割台半ばを超え、特に高くなっている。また、「自分の趣味の時間を取る」も37.8%と高くなっている。（図表5-16）

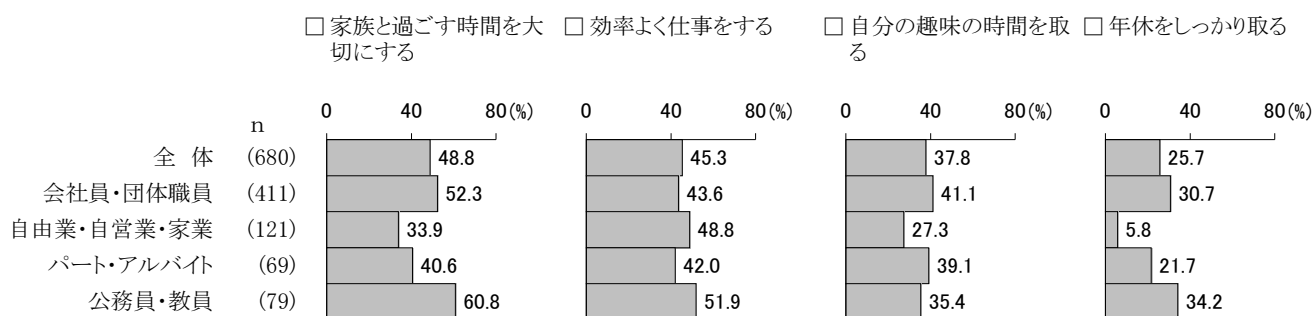
年齢別でみると、20歳代では「自分の趣味の時間を取る」が42.9%と他の年代より高くなっている。30歳代（54.1%）、40歳代（56.8%）、50歳代（53.4%）では、各年代とも「家族と過ごす時間を大切にする」が5割台半ばを占めている。また、30歳代では「効率よく仕事をする」も51.9%と高くなっている。（図表5-17）

図表5-17 ワーク・ライフ・バランスをとるための工夫（年齢別 上位4項目）



職業別でみると、会社員・団体職員、パート・アルバイトでは「自分の趣味の時間を取る」が、それぞれ41.1%、39.1%と4割前後を占め、他の職業より高くなっている。また、公務員・教員では「家族と過ごす時間を大切にする」(60.8%)と「効率よく仕事をする」(51.9%)が他の職業より高くなっている。(図表5-18)

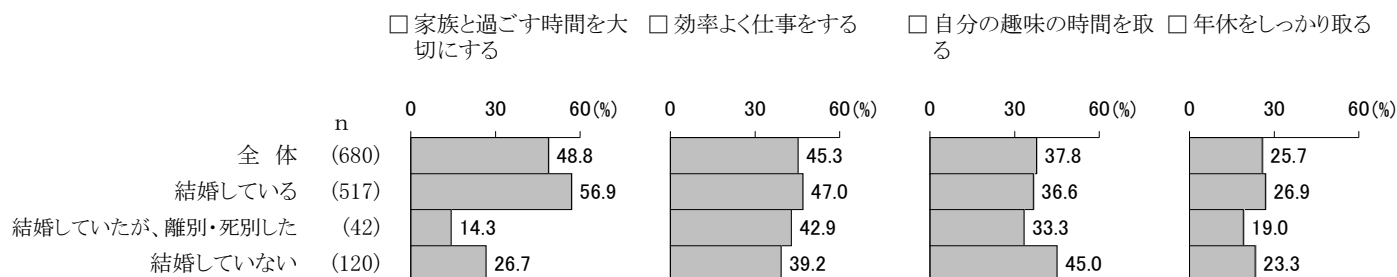
図表5-18 ワーク・ライフ・バランスをとるための工夫（職業別 上位4項目）



※専業主婦、学生、無職、その他は回答者なし

未婚別でみると、結婚している層では「家族と過ごす時間を大切にする」が56.9%と半数以上を占めているのに対して、結婚していない層では「自分の趣味の時間を取る」が45.0%と高くなっている。(図表5-19)

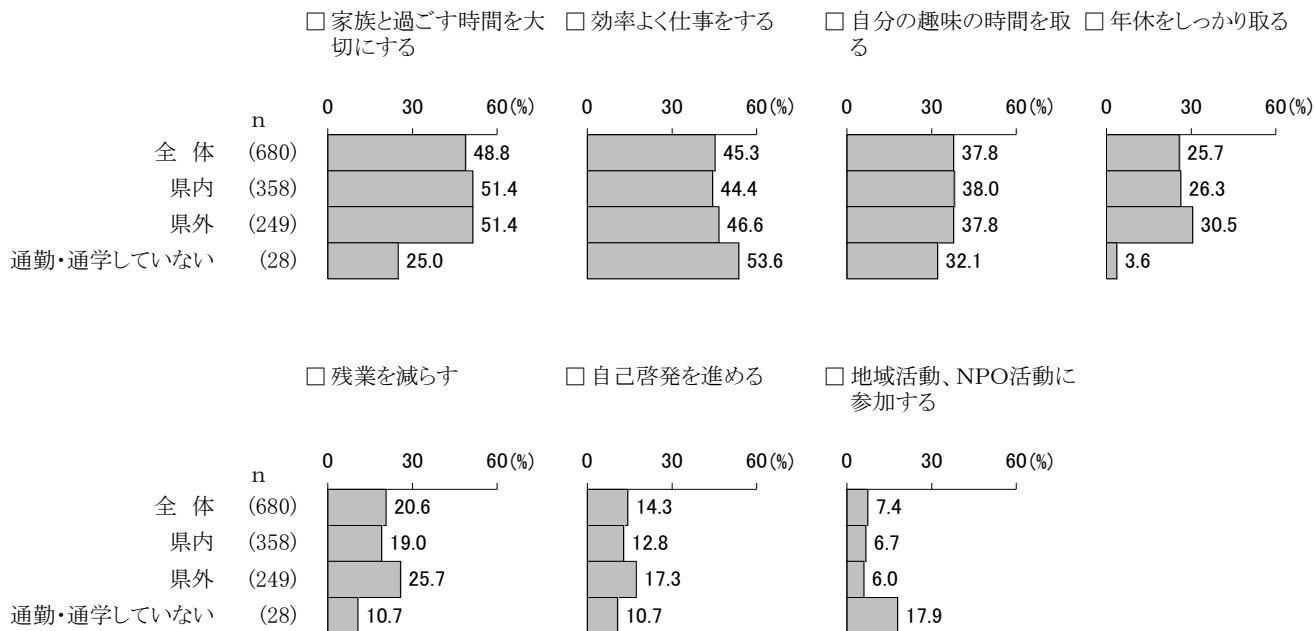
図表5-19 ワーク・ライフ・バランスをとるための工夫（未婚別 上位4項目）



第IV章 調査の結果

通勤・通学先別でみると、県外では「残業を減らす」が25.7%と、県内（19.0%）より高くなっている。（図表5-20）

図表5-20 ワーク・ライフ・バランスをとるための工夫（通勤・通学先別 上位4項目）



ワーク・ライフ・バランスの状況別でみると、ワーク・ライフ・バランスがとれている層ほど、「自分の趣味の時間を取る」、「家族と過ごす時間を大切にする」、「効率よく仕事をする」が高くなる傾向が明瞭に現れている。（図表5-21）

図表5-21 ワーク・ライフ・バランスをとるための工夫

（ワーク・ライフ・バランスの状況別 上位4項目）

